



樽病だより

こころ

第1巻 第4号
発行日
平成18年11月
小樽病院広報委員会
電話25-1211

ホスピタリティについて

事務局長 小軽米 文仁

病院を英語でホスピタルといいますが、そもそもの意味は「見知らぬ人のお世話」ということで、ホテルも同じ語源です。また、ホスピタルから生まれたホスピタリティという言葉があります。

急に小樽観光の話になりますが、昭和61年に今の小樽運河が完成し、旅行雑誌や女性誌に数多く紹介されたこともあり、今や全国区の観光都市になりました。しかし、これまで常に課題とされてきているのが『ホスピタリティの向上』です。よく北海道観光は「料理は一流、サービスは三流」と言われますが、これもホスピタリティの問題です。

ホスピタリティとは、親切に『もてなす』ことをいいます。漢字では「遇なす」と書きますが、この意味は思いがけず出会った人に対し、振舞う、施すということですね。だから観光と病院は、ホスピタリティという共通しているといえます。今、病院に求められているホスピタリティは「患者さまの期待に応えるおもてなし」であり、「技術は一流、サービスは？流」と言われたいように、全職員が今一度ホスピタリティについて考える必要があると思っています。

新病院の建設は、場所が決まり平成23年秋のオープンに向けて実質的にスタートしました。しかし、建物が新しくなるだけではダメで、今以上にホスピタリティの溢れた病院を作らなければならないと考えています。

院長を先頭に、職員一丸となって頑張つてまいりますので、皆さんのご支援をよろしくお願いいたします。

健康のはなし

インフルエンザについて

毎年、冬になると、インフルエンザの流行が、必ず起きます。一九九〇～一九九九年の統計によれば、毎冬、アメリカ合衆国では、インフルエンザの関与で約3万6千人の人が亡くなっています。

インフルエンザにかかると重症になりやすい人たち―65歳以上の方、心臓・肺・腎臓の慢性疾患を持つ方、ぜんそく患者、糖尿病患者、免疫不全患者、重症の貧血患者等―には特にインフルエンザワクチンの接種が勧められます。

インフルエンザワクチンの効果は人によって異なりますが、65歳未満の健康な成人の研究では、流行ウイルスがワクチン株ウイルスと遺伝子的に同様な場合には70・90%の予防効果がありました。老人や慢性疾患を持つ介護施設の入所者では、入院や肺炎を50・60%、死亡を80%減らす効果がありました。

インフルエンザワクチンの副反応として時には注射部位の痛みが2日ほど続くことがあります。通常、日常の活動に支障はありません。

市立小樽病院基本理念

優しさと思いやり

- ・ 市民に信頼され、満足していただける、安全な病院を目指します
- ・ 市立病院としての誇りを持ち、地域に貢献できる病院を目指します
- ・ 患者さまと私たちが勇気と希望を共有できる病院を目指します

ん。また、子供では、注射の6・12時間後に熱が出て、1・2日発熱が続く場合もあります。重篤な副反応はまれですが、卵アレルギーがある人や、いままでのワクチンでアレルギー反応を起こしたことがある人は、かかりつけ医師によく相談しましょう。

インフルエンザ患者の発生は、毎冬、11月から4月ころにかけて見られます。流行前に、10月以降、遅くとも12月前半までにはインフルエンザワクチンの接種を済ませておきましょう。

(内科医長 竹藪公洋)



はじめまして！ 地域医療連携室紹介です

当院では、10月から地域医療連携室が本格的な活動を開始しました。主な仕事として、他の医療機関からの患者さまの紹介をいただき、予約・受付をしたり、紹介していただいた患者さまのその後の状況をお知らせしております。

今までは、発病から治療までの間、総合病院で治療を行うことが一般的でしたが、これからは患者さまのお住まいの近くの医院、診療所をかりつけ医として決めていただき、その医療機関と当院が患者さまにかかる情報を交換し、お互いの医療機関の長所を生かしながら最善の医療を提供することを目標としております。患者さまには、重複する検査や処方費がなくなることで、待ち時間や通院の交通費が減少すること、かかりつけ医を受診しても当院での受診内容、処方内容が容易にわかるなどの利点があり、医療費の自己負担



患者さま



市立小樽病院



かかりつけ医

も軽減につながると思われまます。これらの患者さま、かかりつけ医、当院との橋渡し役を担うのが地域医療連携室です。

地域医療連携室をおしよりの初診は、受付の必要もなく、普通よりも待ち時間が少ないように配慮させていただきます。是非、かかりつけの医師にご相談ください。
(地域医療連携室看護師長 金谷 順子)

おまたせしました 理学療法室より

長年にわたり待ち望んでいたスペースの拡張がよいよ実現しました。旧41病棟を整備、9月5日より新理学療法室での診療を開始しました。広さは2倍以上、明るく開放感があり、窓からは天狗山、毛無山の木々の紅葉、フェリーぶ頭などと小樽の自然が一望できます。病室で天井を見つめている患者さまの気分転換の一助になるのではないかと考えています。また、われわれスタッフもゆとりをもって治療にあたることできたいへん満足しています。



整備された訓練室

新しい理学療法室では、これまでなかった畳の部屋を設けるなど、家庭生活により近い環境で体の動きを訓練することが出来るようになりました。また、しきりを作ったことでプライバシー

シーにも配慮しています。

新たな設備に加え、スタッフ一同がさらに知識の吸収・研さんを積むことで、患者さまの一日も早い家庭復帰・社会復帰に貢献していきたいと思っております。
(主任理学療法士 佐藤 耕司)



新たに設置した和室

NSTの紹介

栄養上問題があると、疾病の治療率、合併症発生率、合併症の程度、死亡率、入院期間に対して明らかに大きな影響を与えます。

NST (Nutrition Support Team) とは栄養サポートチームのことで、患者さまの予後の改善、医療費負担の軽減を目的に医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、医事課職員がメンバーとなり、今年7月から活動を開始しました。



回診の様子



ミーティング

活動内容は病歴、食事歴、身体測定値、検査データなどから栄養不良の可能性がある患者さまの有無を検索します。そして、担当医から依頼があった場合、患者さまの栄養状態評価・回診などを行い、栄養治療計画を提示していただきます。

活動内容にはまだまだ改善すべき点が多く試行錯誤の段階ですが、皆で話し合い努力しています。
(NST委員長 権藤 寛)

インフルエンザ予防接種のお知らせ

インフルエンザ予防接種ご希望の方は、一般の場合は内科に、中学生以下は小児科に、新患または再来の受付をして受診願います。医師の診察の結果によって接種の可否を判断させていただきます。また接種した場合は、その後30分程度、状態観察のために待機していただきます。

《内科》月～木曜日の午前の診療時間内。

《小児科》火、木曜日に午後3時～4時。

年齢によって2回接種を要します。来院日の前日午前12時まで予約願います。新患や再来の場合ともに、番窓口申し出て受付願います。なお、受付は予約時間の10分くらい前にお願います。

内科、小児科は、土、日曜日、祝日や年末年始の休診日と、その前日(金曜日及び11月22日、12月28日)も接種はできません。

料金は、1回につき、2,250円です(消費税等を含みます)。

小樽市内に居住する65歳以上の高齢者(内部障害のある障害者は60歳以上)は、平成19年1月31日までの接種に公費助成がありますので、1,000円の自己負担で接種できます。なお、住所、年齢等の確認のため健康保険証等の提示をお願いします。また、市内居住で生活保護受給の65歳以上の高齢者は、生活保護手帳などを提示して頂くと自己負担が無料になります。

樽病だより こころ

発行 市立小樽病院
編集 市立小樽病院広報委員会
発行は2月、次回は3月予定